

## CAVOK V 2018月年航海日誌 NO4

(8月27日(月) Coruf~10月16日(火) Cagliari)

松崎義邦氏メール(11月30日)

皆様に

約半年間の地中海クルージングを無事終えて10月16日に今年の CAVOK V の越冬地になるイタリアのサルデーニャ島カリアリに入港しました。

5月にトルコのケメルを出港してエーゲ海、ペロポネソス半島を周航して、8月中旬からイオニア海のコルフ島を中心に約1か月コルフ島周辺を楽しみました。この辺りはアルバニアやエリクサー島、オトニー島が近くにあり、のんびり過ごすのには良い所です。イオニア海はエーゲ海のように夏の強風の季節風メルテメが吹かない天候の安定した絶好のクルージングスポットでもあります。

その後イタリア半島の長靴の底の部分の南イタリアを経由して、シチリア島そしてサルデーニャ島までの航海でした。

エリクサー島では我家にも来たことのあるイタリア人夫妻に大変お世話になり楽しい島生活を楽しみました。

9月には大学時代の友人も来艇して1991年迄鎖国をしていたというアルバニアに寄って内陸の観光も興味深くしてきました。南イタリア半島からは、悦子と二人でシチリア島に向かいました。地中海では珍しいサイクロン並みの低気圧が来たのでカターニャに避航して1週間程風待ちをしましたが、丁度この時期グルメのロシア人の友人が来て彼女の案内でシチリア料理と内陸の観光を大いに楽しみました。すっかりシチリア料理と内陸のシチリアの風景も気に入ってしまいました。

10月に内で快適なクルージングと観光を楽しめました。

カリアリに着いてからは艇を上架して越冬準備をしながら友人宅に泊まりサルデーニャ島でのイタリア生活も楽しみました。

そして帰りにエリクサー島でお世話になったトスカーナのサンドロ邸にお邪魔して丁度シーズンのトリュフ、ポルチーニを使ったお肉料理をご馳走になりトスカーナ地方の観光のみならずトスカーナ料理を堪能して帰国しました。

今年も沢山の方々と色々な場所で会うことが出来て一層楽しい航海が楽しめました。

来年は10年目の航海になりますが今から楽しみにしながら2019年の航海計画を考えています。

自宅にて

CAVOK5 松崎義邦

#### 添付写真の説明

1. コルフ島西岸 パレオカストリツシャ
2. アルバニア 世界遺産 ジオカストラの街並み
3. 大学同級生とサンドラ夫妻
4. エリクーサ島 サンドロ邸にて
5. オトーニ島 カリプソ海岸
6. オトーニ島 洞窟
7. シチリア島 カターニャの魚市場
8. シチリア島 内陸部
9. エガディ諸島 10月のファビリアーノ島 カラ・アズラー
10. サルデーニャ島 カリアリ Paolo 宅
11. トスカーナの肉屋
12. トスカーナ サンドロ宅にて

## 2018年 CAVOK V 航海日誌(4)

8月27日(月) Corfu 曇り 微風

朝方パラパラと雨が降る。ここのところ連日積乱雲が発生して、時折マリーナにかかることがある。通常は通過するとカラッと晴れるが今日は太陽を見る機会が少なかった。

午前中にランドリーに洗濯物を出したり、メールの整理をしたりして過ごす。悦子はランドリーに出せないクッションを手洗いする。

一通り作業が終わってから、レンタカーがある内にと大きなスーパーマーケットに行き当面の食材と運ぶのに重いビール、水を大量に買い出しする。あれこれやっているとあっという間にお昼が来る。健康的な生活なのか正確に腹時計がお昼を教えてくれる。昨晚の鶏の胸肉を使ったサンドウィッチと野菜サラダを頂く。出来立てのパンで美味しかった。

アンカーチェーンのカウンターが表示しなくなっていたので前回もお世話になった業者に修理を午前中をお願いしておいた。食後修理に来るが予想していた通り計器と導線の接触不良で簡単に直る。

ラバーボートのエアーポンプが壊れたのでマリーナのチャンドラーで新しいのを購入したがエアーポンプの出口とボートの吸入口のジョイントが合わず色々工夫して何とかエアーが入るようにした。クルージングしていると次から次へと修理箇所が出てくるのでその対応で常に頭を悩ます。同時に解決する楽しみもある。

久しぶりに悦子と二人でのんびりした夕暮れを過ごし夕食にサーモンのグリルを頂く。

8月28日(火) Corfu 快晴

このところ雷雲の発生が続き、時折雨が降る日が続いたが今日の朝は快晴だ。

午前中に昨日の業者が来てチェーンカウンターの修理の仕上げをして帰る。コネクションをクリアしただけだったが50€した。大体作業1時間当たり50€の手間賃が標準のようだ。簡単な修理だが作業手順が分からなかったので必要経費と諦める。昨日ランドリーに出せなかった絨毯やクッションを手洗いする。艇の上では皆さん裸で過ごすのでクッションも汚れてくる。1か月クルージングしているとあれこれやることが出てくる。

お昼に冷やし中華を頂く。ビールと合う。そして昼食の後は心地よい転寝だ。

午後ランドリーに出しておいた洗濯物が出来て届けてくれる。

ほぼやることも終わったのでプールで泳いで熱くなった体を冷やしシャワーを浴びてHappyアワーをする。

夕食はオニオンとジンジャーで味付けしてニンジンとズッキーニを盛り合わせて鶏もも肉のキャセロールを頂く。和風味で美味しかった。

のんびりした一日を過ごした。

8月29日(水) Corfu 快晴 微風

今日は私の73歳の誕生日だ。健康な体を生んでくれた両親に感謝する。

午前中悦子は艇内の清掃、片付けをする。明日エリクサーに寄ってからサンドロとフランカとアルバニアに行く予定なのでその準備をした。

悦子に日誌の誤字脱字を点検してもらう。

お昼に昨晚の残りの物のキャセロールを頂いた後、出国手続きと買い物があるので半日レンタカーを借りたいと思いレンタカー会社と交渉すると1日50€のところ35€で貸してくれた。

マリーナ内にあるポートポリスで艇の出国手続きを最初にする。ここのポリスとも顔なじみになりスムーズに手続きが終わる。その後本港にあるイミグレーションに行き今度は人の出国のスタンプをもらう。マリーナに艇を置いておいて出国出来るので便利だ。出国のスタンプをもらっても実際に出国するのは明日だ。出入国に関しては国によって違い二つの方法がある。一つはコルフ島のようにマリーナに艇を繫留したまま、出入国の管理事務所(ポリス)に向き出入国手続きをして艇に戻って出入国する方法、もう一つは当然だが厳格で出入国の管理事務所のある港の決められた岸壁に着けてそこで出入国する方法とある。

前者だと入国の時は後から、出国の時は前日にでも手続きを終わらすことが出来るので便利だ。

帰りにABスーパーマーケットにより買い出しをする。

今日は私の誕生日という事で、ビーフステーキで祝ってもらうことにした。

日中は大変暑かったが陽が沈むと半袖では寒いくらいの気温になった。

上等のヒレステーキは1kg 31€だったがとっても柔らかくレアに焼いて美味しく頂いた。  
地中海のヨットの上で誕生日を迎えられ極上の誕生日だった。

8月30日(木) Corfu~Erikoussa~Himara(Albania)31NM 15NM 快晴 微風

朝食後07:55に舫いを解きサンドロのいるエリクーサに向かう。今日も静かな海面を機帆走する。コルフ島は緑が多く海から見る景色もきれいだ。12:50にエリクーサの泊地にアンカーを打つ。どこにでもアンカーが打てる絶好の泊地だ。テンダーを降ろしてサンドロ邸に行きアルバニアの情報を聞く。彼は明日忙しいので行けないとの事で我々だけで行くことにする。サンドロが良く知っているHimaraに行くのだが、彼が現地に電話してくれ入港、入国の手配もしてくれるエージェントに連絡してくれた。

約15NMと近いので14:00にアンカーを揚げて向かう。お昼にサンドウィッチを頂く。

ヒマラは小さな漁港の町だが出入国出来る港だ。埠頭に近づくとサンドロの知合いのエージェントの方が夫婦で迎えてくれ漁船の脇に横抱きするよう教えてくれる。16:55に舫う。

エージェントの奥さんは英語、イタリア語、ギリシャ語、ドイツ語を喋れるそうだ。アルバニアでは高校で英語の先生をしているとの事だった。とっても感じの良い女性でアオロラさんという。CAVOK5の上で入国書類を作成してくれた。魚の美味しいレストランの予約も取ってくれ20時予約の時間に迎えに来てくれレストランに案内してくれた。

夕食までの間私は直ぐ近くの海水浴場で泳ぐ。港のある海岸線がすべて海水浴場になっていた。アンカーリングしている艇が2艇程いた。

レストランは港の脇にあり見晴らしの良い場所にある。結構立派なレストランで彼女の教え子がウエイターでいた。

アルバニアのワインはわからないのでハウスワインを頼む。お薦めのサラダはここのお店の名前のサラダだったのでそれにする。ブドウ入りの甘酸っぱいビネガー味で美味しい味付けだった。

魚は色々の種類を見せてくれる。カレイを選んでグリルにしてもらおう。又フレッシュなイカもあるというのでこれもグリルにしてもらおう。新鮮で料理方法もギリシャの様にオリブオイルをたくさん使わず食材の味を生かしていた。大満足でご馳走になった。22時過ぎにお客さんが増えてきたので食事の時間帯が遅いと思っていたらギリシャとの時差1時間あったのを失念していた。お値段も安く40€だった。



8月31日（金）Himare(Albania) 快晴 微風

アルバニアの海岸も綺麗と聞いていたので観光船に乗ることにした。CAVOK5の係留してある直ぐ脇から出港になる。10時予定が30分程遅れて出港する。小さめの観光船で12、3名の乗船客だった。殆どアルバニア人だった。

陸からは行けない2か所の綺麗な砂浜で停泊して泳いだ。

約6時間のクルーズで戻る。

夕方漁船が着いてサンドロに頼まれた魚をアオロラさんのご主人に買ってもらう。

大きなアイスボックスにはハウボウ、アンコウ、イカで一杯になる。

夕食は昨晚も行った“Esperia”に行く。今晚はハウボウの良いのがあったのでグリルを注文した。新鮮で美味しかった。アルバニア産の白ワインを飲んだが癖のない飲みやすいワインだった。

9月1日（土）Himare(Albania)～Erikoussa (15NM) 快晴 微風

出入国の手続きをしているアオロラさんが10時に来る。すべて出国手続きが終了という事でパスポートを受け取り10:15（アルバニア時間）に舳いを解く。暫く機走していると後ろからボリスボートが追いかけて来て何処に行くか確認してきた。ギリシャ・コルフ島に行くというので出国書類にはイタリア・ブリンデシになっているという。そしてコルフに

行くにはアルバニアのサランダによってパスポートコントロールを受けなければいけないといわれる。話が違うのでアオロラさんに電話で聞いてみると彼らがおかしいとの事で“無視してサランダに寄ることなく、ギリシャの入国に問題ない”との事だったのでそのままエリクーサ島に向かう。

14:50にエリクーサ島のマリーナに舫う。

このホテルのシェフのテオさんは日本食に大変興味を持っていて悦子に日本食について色々教わっている。彼も日本料理はある程度知っていて一応魚を日本流にさばける。

悦子が寿司飯を艇で炊いてイカの姿寿司、ホウボウの刺身、マグロの握り寿司、そして私はイカと野菜の天ぷらを揚げる。

結構評判良くホテルのお客さんが日本食を楽しんでくれた。

今晚の夕食はご馳走になった。

9月2日(日) Erikoussa~Othoni(9NM) 晴れ 微風

シェフのテオさんと彼の13歳になる息子バジーズと一緒に隣の島エトーニに海水浴に行く。ここエリクーサ島のマリーナは小さな島のせいか水の制限があり朝と夕方しか使えないので不便だ。そんな訳で水の出るうちにと洗濯と艇への給水したので出航が遅くなり11:30に舫いを解く。

9NMと近いので2時間弱でとてもきれいな海からでしか来れない砂浜のカリブソ沖にアンカーを打つ。10m以上ある底が綺麗に見える。皆さん泳いでお昼に彼らが持って来たミートパイと日本そばを頂く。約3時間弱遊んでエリクーサに17:40着く。今日は沖合にアンカーを打った。

サンドロ邸に行って美味しいアイスコーヒーを頂いて来客者とおしゃべりをしてから艇に戻る。今日は我が艇で、メロン生ハムでハッピーアワーをしてから野菜サラダと日本風味の鶏料理を頂く。オニオン混じりのソースが良い味を出していた。

9月3日(月) Erikoussa 晴れ 微風

午前中艇の上でのんびり過ごす。

錨泊している艇は、今日は少なく3艇だけだった。

お昼に蕎麦と、昨日テオさんから頂いたひよこ豆を玉ねぎと煮て頂く。ひよこ豆が美味しい。

15時過ぎに泳いで浜に上がりスタンドアップパドルボード(サップ)の練習をする。結構バランスをとるのが難しく足の筋肉がびくびくしてくる。へっぴり腰で何とか倒れないで漕ぐことが出来たが足の方がへばってきたので長くは出来なかった。

今晚はフランカのところの夕食の予約をする。いつもご馳走になって居るので今日はレストランのお客さんという事になる。

19時前に悦子とテンドーで上陸する。今日のお客さんはオーストリアからの夫婦、この

島に別荘を持っているイタリア人夫妻、アテネから来た写真家とモデル、その他家族連れが二組滞在している。

アペリティフにロゼワインを飲みながらパノラマに広がる海を見ながら食事までの時間を楽しむ。

テオさんが調理したお刺身も加えたフルコースの美味しい料理をサンドロ夫妻と一緒に頂いた。

ここではワインはいつもイタリアのワインだ。

仕上げは、悦子はチポリ、私はウイスキーのオンザロックにした。

23時過ぎに真っ暗な海をテンダーで戻り静かな海で眠りにつく。



9月4日(火) Erikoussa~Corfu (Gouvia) 31NM 晴れ 微風

今日の午後から6日迄風が強くなる予報なので明日コルフ島に行く予定をしていたのを一日早めて今朝8:10にアンカーを揚げる。生憎と風が吹かず全行程機走になる。

13:30にグービアマリーナに筋う。

アルバニアで出国してから未だギリシャに入国していないので入国手続きをする。マリーナにあるポート・ポリスでいつもは艇の入国が出来るのだが、今日はいつも手続きしてくれる愛想の良いポリスが休暇に入っていないなく、別の若い女性のポリスが対応してくれたが彼女では手続きできなく結局本港のポート・ポリスに行くことになった。

タクシーで往復すると 40€位かかるのでレンタカーを三日間 105€で借りた。

本港のポート・ポリスは美人のポリスで尚且つテキパキ書類を作成してくれた。これを持ってパス・コントロールに行き入国を無事済ます。

アルバニア出国の際ポリスポートが追いかけて来てサランダで出国手続きをしと言われていたのでギリシャへの入国が心配だったがアウロラさんの云った通り問題なしに入国出来た。

グービアマリーナの 7 日の予約がマリーナ満杯という事で取れてないので帰りにケルキラ城の脇にある Mandraki と NAOK YACHT CIUB によって 7 日のバースの空きを聞いてみる。生憎と Mandraki は満杯との事 NAOK の方はマスターがいなく後日確認することにした。

グービアマリーナは大きいマリーナだがチャーター艇の大きな基地になっていて金曜日はその艇が戻ってくるのでバースがいっぱいになる。前日も金曜日は取れなかった。

6 日に来る友人の観光を 7 日に考えていたので計画を再度練り直す必要が出てきた。

帰りにお店に寄り丁度艇に良さそうなワイングラスを見つけたので六脚買う。艇でもガラスのワインで飲みたいのでガラスのグラスを使っているが結構割れてしまう。

食料も切らしてきたので途中でスーパーマーケットに寄り当面の食材を購入して艇に戻る。

夕食は野菜サラダ、そしてひよこ豆、ジャガイモ、ニンジン、オニオンと一緒に蒸したポークを白ワインで頂く。

夜風が涼しくなり半袖と半ズボンで、外で食事しているとちょっと寒いぐらいになるがアルコールが入ると丁度良くなる。

野菜でお腹いっぱいになる。

## 9月5日(水) Corfu 快晴 強風

朝洗濯物をランドリーに出してから艇の水洗いをする。アンカーとチェーンとのコネクションの一部にネジを使っているがそれが緩むとアンカーが離れてしまうのでネジが緩まないように整備をする。

マリーナに 7 日の係留の件を確認するが未だ空きがないとの事だ。昨日寄ったがハーバーマスターが不在で確認取れなかった NAOK ヨットクラブに行き聞いてみたが現在ビジター用バースが無いという事で断られる。

結局 7 日のコルフ島滞在は止めて 7 日アルバニアのサランダに 2 泊で行くことに決めた。

早速調べておいたサランダのエージェントの Agim さんに電話するとサランダでの出入国手続き、繋留の確保をしてくれるとの事であった。これで安心して行ける。

お昼過ぎに島の西側をパレオカストリッアの綺麗な海岸線を上から眺めながらドライブする。その後海から聳え立つ岩山の上に建つアゲロカストロの城塞の下の店でお昼を食べる。



残念ながら良い店が無くお粗末なお昼だった。

17:15に太田夫妻が空港に着くので迎えに行く。長い飛行機の旅にも拘わらず元気に姿を現す。機内で良く寝れたようだ。

今日彼らはホテルを予約してあったので其処まで送ってから、旧市街地で一緒に食事をする。

いつも行く“REX”でコルフ産赤ワインにサラダ、ヒレスステーキ、ヴィールステーキ、ハンバーグを其々食べる。デザートにケーキをサービスしてくれた。お肉は柔らかかったがソースがイタリア風味のクリームソースでどちらかと云うとシンプルなガーリック、塩、コショウの方が良かった。

10時過ぎても人が沢山溢れていた。

ホテルに太田夫妻を送って戻る。

9月6日(木) Corfu 快晴 強風

11時に太田夫妻をホテルに迎えに行く。艇に着いて荷物の整理をした後、コックピットでアイスコーヒーを飲んで一休みする。

お昼はマリーナ内のレストラン“Argo”でサラダを食べる。

明日からの航海に備えてLidlとABスーパーマーケットに行ってお店の買い出しをする。

艇に戻って太田さんとプールでひと泳ぎしてプールサイドでビールを飲んでシャワーを

浴びる。

風が心地よく日中でも暑さを感じない天気だった。

太田さんは囲碁三段の腕前だ。今回わざわざ私の為に碁盤を買って持ってきてくれた。

食事前にブルを飲みながら定石を教えてもらう。個人教授で贅沢だが私の記憶力が良ければ結構腕が上がるはずだ。

夕食はひよこ豆、野菜サラダ、サーモンのグリルを白ワインで頂く。

私は今晚 22:40 に着く立石さんを迎えに行かなければならないのでお酒は控えた。

涼しい心地よいコックピットでの食事だった。

空港に太田さんと二人で出迎えに行く。ローマからの飛行機は少し遅れて 23 時過ぎに到着する。彼のフライトはロスアンゼルス～ストックホルム～ローマ経由の長時間飛行だったが元気に姿を現した。

艇に着いてからコックピットで心地よい夜風を浴びてウイスキーの水割りを飲みながら歓迎会をする。話も弾んだが 1 時過ぎになったのでお開きにした。

9 月 7 日（金）Corfu (Gouvia) ~Albania(Saranda)15NM 晴れ 微風。

皆さん長旅でお疲れだったので朝食はゆっくりと 9 時に頂く。

食後今日アルバニアに行くのでギリシャの出国手続きをする。

最初にマリーナ内にあるポートポリスで艇の出国手続きをしてから本港のパスポートコントロールに行き人の出国手続きをした。

艇に戻りレンタカーを返して、11:30 に舳いを解く。

昨日の風が治まり静かな海を暫く帆走する。目的地が 15NM 先と近いのでのんびり速度が 4 ノット以下に落ちてても帆走するが 1 時間弱で風が無くなり機走にする。

コルフ島とアルバニアは近いところで 1NM も離れていない。その間を抜けて行く。

お昼にパスタを頂き 13:30 にサランダに入港する。サランダはギリシャより 1 時間早い時差がある。

入港前に VHF でエージェントに連絡を入れると入港の指示してくれ埠頭で待っていた。プレジャーボート用の岸壁に横着けする。3 艇ぐらい横着け出来るスペースがあり着けすれば 6, 7 艇は入りそうだった。水、電気もあり入国のペーパーワークはエージェントが艇の上でやってくれた。すべてがスムーズで助かる。先着にドイツ艇が 1 艇いた。

早速レンタカーを借りてブトリント遺跡に行く。サランダから南に 30km 行ったところにある。ブトリント遺跡はイオニア海の港として栄えた城塞都市でその歴史はギリシャ、ローマ、ビザンチン、ヴェネチアそしてオスマントルコ時代と歴史の変遷の都市になっている。

紀元前 4 世紀に建てられた医学の神を祀ったアスクレピオス神殿、ギリシャ時代の半円形劇場遺跡も残っていた。

一つの島が要塞都市になっている。島一周廻って見学する。

持参のカーナビの指示の読み方が難しく細い車の通らないようなところを指示してくるので難儀した。

サランダの町は観光主流の町でゴルフからフェリーが一日数便、そしてイタリアのブリンデシからも来ている。綺麗な街でホテルや旅行者用のアパートメントが立ち並んでいる。海岸線はロングビーチの海水浴場になっている。

夕食に美味しいシーフードレストランをエージェントに教えてもらい食べに行く。サラダ、オラーダ（鯛の一種）とシーバスをグリルで、エビは揚げてもらい食べる。魚は上手に焼いてあり新鮮で美味しかった。地元の白ワインを頼んだ。

美味しく頂いて5人で52€だった。

艇に戻ってから今晚も太田さんから囲碁を教えてもらってから休む。

#### 9月8日（土）Saranda 快晴 微風

今日はサランダから60km位北にあるジロカストラに行き世界遺産になっている歴史的建物の並ぶ街並みとジオカストラ城の観光をする予定だ。サランダの町を出てから国道を道なりに走る。途中森林地帯の公園を抜けてから山脈を越えてジオカストラのある広い盆地に入る。途中森林地帯の池に湧水が湧き出てそこが青目の様に見えるブルーアイという名所がある。帰りに寄ることにする。

ジロカストロも先史時代からの歴史があるが現在のある建物は13世紀に形成されている。ジロカストラの町は石の町とも呼ばれ、建物の屋根は白い平岩を重ねられ、壁は石積で統一され綺麗な町を形成している。石畳は白と黒の石で敷き詰められていて、通りにはお土産物屋さんがずらりと並んでいた。

ジロカストロ城はその町を見下ろすように丘に建っている。城の起源はヘレニズム時代からでその後ローマ帝国、ビザンチン、ヴェネチアそしてオスマントルコと続いている。

近代では第一次大戦、そして第二次大戦と戦争の舞台になっている。特にパルチザンとドイツ軍との戦いの戦場であった。

お城の中にはドイツ軍がパルチザンを捕まえたときの牢屋や、水攻めの部屋があった。

当時の戦争の形跡を残した博物館の様になっていた。

ジロカストラ城から見る世界遺産の町の風景は統一された造りの家々とバックには山脈が連なり美しい光景だった。

お昼は町の広場のレストランで食べ、帰りにブルーアイに向かう。来るとき場所は分かったつもりでいたが見過ごしてしまい通り過ぎてしまう。ガソリンスタンドで教えてもらい戻る羽目になった。

ブルーアイのある公園は森林の中にあり、その中に綺麗な急流の川が流れている。

ブルーアイはその流れの途中の池にあり湧水が勢いよく底から湧いている。その湧水が出ているところがコバルト色の鮮やかな青になり上から見るとブルーアイとなる。

足を入れてみると大変冷たい。10℃との事だった。

ブルーアイから戻る途中にも湧水あり、そこで飲めるようになっているので飲んでみる。水道の水と違い柔らかい感じの味だった。

町に戻りレンタカーを返してから食事に行く。今晚は全米オープンテニスの大坂なおみとセレーナとの決勝戦が22時からあるのでこの試合が見れて魚の美味しいレストランを教えてください。

20:30にレストランに行くことにしてその間にシャワーを浴びて、ハッピーアワーをする。

レストランは海岸沿いの小さなホテル内にあり、そこで大画面の映像も見れる。22時から放映するのでその前に食事をする。何時もの様に野菜サラダ2種類、ムール貝、ピцца、スパゲッティそしてワインはハウスワインを10頼む。ムール貝が新鮮でちょっとスパイシーな味付けがとっても美味しかった。

食後に丁度試合が始まる。嬉しいことに大坂なおみがストレート勝ちで優勝する。大変な快挙の試合をアルバニアで味わった。

#### 9月9日(日) Albania(Saranda)~Corfu (Gouvia) 15NM

朝約束の時間にエージェントが出国手続きを終えて書類を持ってきてくれた。2泊の係留料入れて90€だった。

8:40に舳いを解く。暫く帆走を楽しんだ後風が無くなり機走する。コルフに近づくにつれてヨット、モータークルーザーの数が多くなる。

12:30にグービアマリーナのガソリンスタンドに着けて燃料を入れる。510だけだったが燃料は入れられるときに出来るだけ入れるようにしている。

13:00に友人のサンドラのバースC31に繋留する。コルフに来た時は毎回彼のバースを借りている。彼の艇は夏の間エリクーサ島に繋留してこのバースが開いているからだ。前は彼の友人の艇が入っていてここに泊められなかったが今回は空いたのでOKとの連絡をもらっていた。

1日75€の係留費が無料になるので助かる。

お昼にお蕎麦を食べた後本港に行って入国する。非常にスムーズに出入国がアルバニア、ギリシャ間で出来るので助かる。入国手数料は15€だった。

今日の観光は止めてマリーナのプールサイドでゆっくりする。

夕食はマリーナの外にあるレンタカー屋のおばさんに教えてもらった“Harry's Taverna”に行くが大繁盛していた。

野菜サラダ2種類、カラマリフライ、ムサカ、ムール貝、サーディングリルをハウス白ワインで食べるがすべてが新鮮で味付けも良く大成功だった。ギターの生演奏もあってヨット関係のお客さんが多かった。

帰りにレンタカーを借りて帰る。2泊3日で75€だった。

艇に戻り太田さんに囲碁の手ほどきをしてもらい休む。

9月10日(月) Corfu 快晴 微風夕方順風

ゆっくり寝てしまう。遅い朝食を食べてからアヒリオン宮殿に行く。ここは1889年にオーストリア エリザベート皇后の為に造られた宮殿だ。ウィーンでの窮屈な生活を逃れるため、静養を名目に訪れていたそうだ。エリザベートが好きだった英雄アキレスの名前からアヒリオンと名前をつけたそうだ。庭には一流の彫刻や肖像が並び、広大なテラスガーデンからはイオニア海が見渡せ、宮殿内にはアキレスの大きな油絵を始め貴重な芸術作品が展示してある。

見学の後ケルキラ市内に戻り海とケルキラ城の見える KAOK ヨットマリーナの上にあるレストランで昼食をとる。

その後旧市街地を観光して16時過ぎに艇に戻りプールサイドで休んで過ごす。

夕食は旧市街地のレストラン“Rex”に行くが休みで仕方なくマリーナに戻りレストラン“Argo”で食べる。グreekサラダ、シェフサラダ、そして今日のお店の特選料理の“魚の盛り合わせ”とポークの足肉のグリルを食べるが食べきれずポークの足肉は一人前持ち帰る。

魚の盛り合わせは色々な小魚とイカが入っていた。ポークの足肉は上手にグリルされ美味しく食べた。

艇に戻ってから今晚も太田さんから囲碁の手ほどきを受ける。

深い眠りに入った。

9月11日(火) Corfu 快晴

今日は島内の北側を観光することにする。

最初ニサキ(Nisssaki)からカシオピ(Kassiop)までの東側の風光明媚な道をドライブして島の北西端にあるシダリ(Sidari)に行く。アルバニアが直ぐそばに見える。シダリは浸食され砂岩郡の景色が青い海とのコントラストで美しい。若者3人の男女が砂岩の上から飛び込んで楽しんでた。その後島の西になるパレオカストリツァ(Paleokastritsa)に行く。ここはリゾート地で上からの海の眺めは素晴らしい。その海を眺めながら山の上のレストランで昼食をとる。太陽の光が一層輝きをましていた。海を眺めた後はパントクラトル(Mt.Pantokrator)を目指す。途中オリーブクラフトのお店で買い物する。オリーブファクトリーを見学したかったがこの時期未だオリーブの収穫時でなく工場は閉まっていた。パントクラトル山は標高906mだが島一番高い山でイオニア海を鳥瞰図のように見ることが出来る。アルバニアは勿論サラングの町も良く見える。イタリア側の方には明日行く予定のエリクーサ島の島も見える。素敵な眺望だ。頂上には教会もありお茶屋もある。一杯コーヒーでも飲んでゆっくりしたいところだったが時間が遅くなってきていたので艇に戻る。

明日から島めぐりになるのでABスーパーマーケットで買い物する。

夕食はレンタカーを返しがてら先日行った“Harry's Taverna”で食べる。

グreekサラダ、ムール貝、ポークスヴラキ、ミートボール、クレフティコ（骨付き羊肉をオリーブ油とレモン汁でマリネし、ゆっくりと蒸し焼きした料理）、タコの足のグリルを白のハウスワインで食べる。明日からギリシャ内だが小さな島を訪ねるので今夜はギリシャ料理だけにした。いずれも美味しく、ギリシャ料理は美味しいという事になった。

今夜も太田さんに囲碁の手ほどきを受けて休む。

9月12日（水）Corfu（Gouvia）～Erikoussa（31NM）快晴 微風～順風

朝食後マリーナのオフィスに行き出港の旨伝える。サンドロのお陰で繫留料は無料になった。前日にフランカが魚を買い付けしたのでエリクーサ島まで運んでほしいとの連絡があったので頼んだ魚を待つ。9時過ぎに受け取り 09:30 に舳いを解く。

昨日ドライブした海岸線を見ながら北東端にある小島を通過するまで機走する。其処からコースが西に変わったのと良い風が吹き出して来てセーリングを楽しむ。お昼は野菜たっぷりのサンドウィッチをビールで頂く。このサンドウィッチにはトマト、オニオン、レタス、キュウリに生ハムが入っているが野菜のそれぞれの味と生ハムの塩味が相まって美味しい。好きな昼食の一つだ。

15:00 にエリクーサ島のマリーナに舳いを取る。今日はスタッフが舳いを取りに来てくれた。

そしてサンドロとフランカが迎えに来てくれていた。魚の入ったトロ箱を渡す。

マリーナオフィスで手続きをする。ここは今年出来たマリーナなのと小さな島のせいかわ道とシャワー、トイレが常時使えず時間制限があり多少不便だが錨泊を考えれば問題なしだ。

サンドロに太田さんに日本から持ってきてもらったサントリー山崎と日本酒を届ける。

皆でホテルの前の海水浴場に行き、パラソルの下でのんびり過ごす。

私はスタンドアップパドルの練習をするがバランスが難しい。

車を借りて艇に一度戻り夕食にサンドロのホテルに行く。

アペリティフに其々ワイン、ビールを飲む。

夕食はムール貝とシーバスの塩焼きをイタリア白ワインで食べる。シーバスは今朝我々がコルフから運んだものだ。

海を臨むテラスに座り、心地よい雰囲気の中で美味しい夕食を楽しんだ。他にお客さんが二組いた。

帰り車を借りて艇に戻る。

今夜も太田さんに囲碁の手ほどきを受けるが24時過ぎになり目が開かなくなり就寝する。倒れるようにぐっすり眠りに入る。

9月13日（木）Erikoussa 快晴 微風

一日のんびりエリクーサ島の海岸で休むことにした。係留場所からサンドロのホテル Acantha Boutiqu Hotel まで歩くと若干距離があるのでテンダーを降ろして海岸まで行く。

お昼にサンドロ夫婦を招いて艇でラーメンを一緒に食べる。

食後皆さんひと眠りする。起きてから洗濯をする。

夕方近くになり又海岸に行きビーチベットでのんびり過ごす。3回目のスタンドアップパドルリングの練習をするがまだまだ不安定な乗り方だ。結構難しい。

マリーナの時間制限のシャワーが使えたので皆さんシャワーを浴びる。

悦子は刺身とたたきを作るため艇に戻らずホテルの厨房で仕事する。

20時前に我々は歩いてホテルに行き、夕食を食べる。

今日はオリーブ、カポナータ、そしてスパゲッティはジェノベーゼとシュリンプとツナとオーベルジンのパスタのチョイスでそれぞれお気に入りを頼みイタリア産白ワインと赤ワインで食べる。悦子の作った刺身、たたきは25人いたお客さんに廻り我々の口には入らなかった。デザートはパンナコッタとアイスクリームのチョイスだった。

その後オーストリアから来た4人連れの家族とサンドラ夫婦と一緒にサントリー山崎を楽しんで夜更けを楽しんだ。オーストリア人のお嬢さんは日本が好きで日本に来たこともあり写真を見せてくれた。奥さんは笑顔を絶やさずとっても感じの良い方だった。

24時過ぎに車を借りて艇に戻る。遅くなったので太田さんに簡単な定石の復復習をしてもらい寝る。

9月14日(金) Eriloussa~Othoni (9NM) 快晴 微風

このところ滞在する日が多いのでついつい朝寝坊してしまう。

朝食後車をサンドロのところに返しに行こうとしたところフランカが車を取りに来た。

申し訳ない事をした。

彼らはお客さんと一緒にサンドロの艇で隣のオトーニ島のカリプソ海岸に行く。我々も今日はオトーニ島に停泊予定なので彼らの後に続く。カリプソ海岸は海からしか行けないところでコルフ島からも艇がアンカーリングしに来る。白い崖に囲まれた白砂の海岸で海がクリスタルウォーターで魚も結構いてお気に入りの場所だ。



先にサンドロの艇がアンカーリングしていた。泳いで彼の艇に行き暫く今後のクルージングの後の予定のお話をする。今回帰国する前にトスカーナにある彼の家にお邪魔する予定になっている。

又イタリアのマリーナについて教えてもらう。

彼らはこの後他の島に行って昼食との事で、ここでさよならをする。

CAVOK5に戻ると足ヒレを落としたという事で潜る。10mあるので耳貫が心配だったが問題なく潜れて足ヒレを回収できた。

波があつて艇が揺れるのでここでの昼食は諦めてオトニ島の港に移る。幸いに電気、水道の使える岸壁が空いていたので其処に横着けする。

その後村のタベルナに行き WIFI を使う。

私は日課の泳ぎをする。水が澄んで気持ち良い。

夕食はポークの肩ロースのグリルとラタトゥイユを頂く。ラタトゥイユは野菜のエキスが出て美味しい、ポークも柔らかくそしてソースとマッチングしていける。ライスにソースをかけて食べたがそれも美味しかった。白、赤其々1本空ける。

9月15日(土) Othoni~Leuca 48NM 晴れ 微風

朝7時に起きる。直ぐ出港の用意をして7:35に舳を解く。悦子はその間朝食の準備をする。風が無く穏やかな海だ。出港してから朝食をとる。

弱い向かい風の中機走するが風が気持ちよい。隣の艇も同じ目的地だったが先に出港していて既にいなかった。

途中追いつくかと思ったが最後まで追いつけなかった。イオニア海の出入り口を横切っているので本船が多くなる。お昼にラタトゥイユを使ったオムレツとソーメンをビールで頂く。

レウカに着く1時間前に半島に出来た入道雲の端っこが被ってきて小雨を降らすが入港前に青空になっていた。

15:10に舳う。ギリシャとの時差が1時間ある。

レウカは丁度イタリア半島の南東端なのでギリシャ方面の行き帰りの時に良く寄るマリーナだ。

隣には先に出たイタリア人の艇が舳っていた。そしてキハダマグロが今朝釣れたという事で切り身を分けてくれた。

私はイタリアに入ったのでボーダフォンのSIMを買おうとボーダフォンショップを聞いたがこの町には無いという事で諦める。そしてイタリアの国旗が無かったのでお店を探してダイバーショップで何とか手に入れた。

夕方頂いたキハダマグロを刺身にして白ワインで一杯やるが結構おいしかった。マグロをくれたイタリア人夫妻に届けるが奥さんは全く刺身が駄目なようで口にできなかったがご主人の方は美味しそうにパクパク食べた。

夕食はビーフステーキを頂くが焼きはとっても上手にできていたがお肉自体が今一の味だった。

今日も食後太田さんに囲碁の手ほどきを受ける。

9月16日(日) Leuca~Gallipoli 30NM 晴れ 順風

今日は30NMの距離なので朝食のおにぎりを頂いてから舳いを解く。

北風の順風で直ぐセールを揚げる。15ノット前後の風を受けてクローズドリーチで6ノット以上キープする。

途中風が前に回りクローズホールドになったがセーリングを最後まで楽しんだ。

ガリポリ城を回り込んで Marina Blue Salento のマリナーナに入る。VHF9で呼び出したら暫くして返事が返ってきた。予約してあるかと聞かれた。いっぱいのように予約をしておいて良かった。ここには3つほどマリナーナがある。前もってサンドロに教えてもらったマリナーナを予約しておいた。

お昼を食べてなかったのでガリポリ城の前のレストランで、ビールで喉を潤おしてからシーフードと雲丹のパスタをそれぞれ食べる。流石イタリアなのか茹で具合もアルデンテ気味、味も満足だった。

その後島が城塞都市になっている旧市街に橋を渡って行く。ガリポリ城が橋を渡ったところがあり見学する。このお城は12世紀に東ローマ帝国の要塞として建設されその後アンジュー家、アラゴン王国、メッサビア、ノルマン、ベネチアと統治は推移している。

私はその後17時からボーダフオーンショップがオープンするという事で行ってみるが日曜日で休みだった。そしてレセプションで艇の受付を済ます。係留料は63€だった。

太田夫妻、立石さんと一緒に CAVOK5 での最後の夕食を艇で取る。

生ハムメロンから始まり野菜サラダ、ガリポリで手に入れたあさりのガーリック蒸、そしてツナのトマトソース味パスタを白と赤ワインで頂く。ガーリック味の新鮮なあさはりは特別美味しかった。

ここで太田夫妻、立石さんは離船するので荷造りをする。明日は72NM先のクロトーネまで行くので早くやすむ。



9月17日(月) Gallipoli~Crotona 72NM 晴れ 北12~15ノット

大田夫妻、立石さんは6:20にタクシーを頼んでおいたので6時過ぎに下船する。同時に我々は06:10に舳いを解く。日の出は06:34だった。

朝早くなり慌ただしく申し訳ないことをしたが日没前にクロトーネに入港したかったので勘弁してもらった。

太田さん達はタクシーでレッチェ迄行ってそこでレンタカーを借りてマテラ、アルペロベッロ、アマルフィ、ボンベイ、ナポリそしてローマと3泊4日の内陸旅行を楽しむ予定だ。

我々はターラント湾を西に横断する。北風が15ノット前後吹いてくれ最初からセーリングで6~7ノットの速度で順調だ。日没が18:57なので19時前までに到着したいので6ノット以上のスピードのキープが必要だ。幸い風が続き10時過ぎにはジェネカーを揚げる。

残り20NMの時点で速度が6ノット切ようになったのでジェネカーを諦め機走に移る。

18:30に予定通りクロトーネのYachting Clubに舳う。前回はLega Navale Crotonaに舳うがここにVHFで連絡したが返事がなく、手招きで呼んでくれたYachting Clubにした。

繫留料も40€と安く、町には少し遠いがスタッフも親切で気に入った。

早速町に出る。ここも城塞都市で歴史は古く紀元前700年からギリシャの植民地として栄えピタゴラスも住居を構えたところだ。

町の中心街が港を挟んで城塞の反対側なので城塞を廻る形で結構歩いて行く。

ボーダフォンショップを見つけて SIM カードを手に入れてから、港の近くのレストランで遅い夕食を取る。野菜サラダ、シェフのお薦めアペタイザー、マルゲリータピザを赤ワインで食べる。食べたかったイタリアのピザ、流石焼き加減も丁度良くトマト味も美味しかった。

23 時過ぎに艇に戻りシャワーを浴びてメールチェックして休む。疲れが眠りを深くする。

#### 9月18日(火) Crotone 快晴 微風

今日は次の寄港地 La Castello に行く予定だったが天候が暫く安定しているのと連日の疲れもあったのでクロトーネで休養することにした。

今回繫留した Yachting Club は場所こそ外防波堤の内側にあつて不便な場所だがスタッフが非常に親切で気持ち良い。施設もそれなりに水、電気、トイレそして有料だがシャワーと洗濯機もある。人通りも少なく静かで田舎の港という感じでのんびり過ごせる。

午前中に溜まった洗濯をする。

その後二人でフィッシュマーケットに行き、カラマリ、あさり、シーバスを買う。私はスマートフォンの SIM を昨日買い忘れたので旧市街を横断して中心部に SIM カードを買いに行く。どうも通信関係はスムーズに行かず今回もボーダフォンショップの不具合でこの時間 SIM カードの登録が出来ないという事で午後 4 時過ぎに来てくれという事で引き返す。往復 3 KM はある。

途中マーケットが開いていたので野菜と果物を買って帰る。

お昼にサラダと朝仕入れたボンゴレをガーリックソテーで、そして久しぶりに冷奴を頂く。ボンゴレはガーリック風味で良い味が出ていた。白ワインにピッタリだった。

食後は海風に吹かれながら午睡を楽しんだ。

夕方再度ボーダフォンショップに行き無事スマートフォンが開通した。

隣には親子 6 人ずれのイギリス艇が入っていた。4 人の子供たちは最年長者で小学校高学年ぐらいであった。

夕食は生野菜のサラダ、温野菜のサラダ、イカのグリル、シーバスの蒸しを白ワインで頂く。イカが新鮮で、かつこちらのグリルの様にウエルダンにグリルするのでなくレアに近くグリルしてあるので美味しさが倍増した。今晚も静かな夜だった。

#### 9月19日(水) Crotone~Le Castella (20NM) 晴れ 微風

朝食をゆっくり食べた後にこやかなスタッフとお別れの挨拶をして 09:30 に舳いを解く。

風もなく静かな海面を機走する。途中横から 5 ノット前後の風が吹いたので機帆走にする。

途中この辺りは自然保護海域が Zone A と Zone B があり Zone A は航行禁止になっている。二つほどあった Zone A を避けて航行する。見ていると地元の釣り船が中に入っている。

近回りで禁止海域を通りたくなるが避けて通った。

Le Castella の入り口は浅くて狭いので用心深く進入する。港の中に入って 2 年前着けた入り口の岸壁に着けようとするスタッフが出来て取ってくれる。

12:40 に舫い昼食にお蕎麦を頂く。

ビジターは我々だけで港の中は地元艇でいっぱいになっている。小さな港なので皆さん通り過ぎて寄らないようだ。

とっても静かな港で艇にいて休まる。

ここも歴史がある。紀元前 4 世紀にギリシャの植民地として栄え、その後ローマ帝国の支配下になったがカルタゴのハンニバルがローマ帝国にここまで追い詰められている。

西ローマ帝国が滅びた後、ノルマン、ビザンチン、アラゴンと統治は推移している。

岬から 120m 程沖合にあるお城は 15 世紀にスペインのアラゴン王国が築いた城だ。

この辺りの歴史を調べるのは面白いが資料がないので苦労する。

悦子は腰が痛いというので一人でお城の見学に行く。

夕食は大盛野菜サラダ、カラマリのゲソとエンペラ、シーバスのグリルを白ワインで頂く。

カラマリは日本のイカと同じ味がして美味しく頂いた。いつも健康的な食事だ。

9月20日(木) Le Castella~Rocceella Ionica 45NM 晴れ 微風

8:00 に舫いを解く。

ここのイタリア半島の足の部分はイタリア側とギリシャ側との行き帰りに良く通るところだ。

行き交うヨットが結構多い。今日も風が弱く機帆走する。同方向に艇が 3 艇程一緒になって行く。お昼は冷や麦と冷奴を頂く。機帆走していると暇なのでつついあれこれつまみ食いをしてしまう。ブドウ、ピスタチオ、ビスケットそして紅茶を飲む。

ここの港は砂が堆積して入り口が浅くなっているところがある。2016 年に来た時はスタッフがボートで入り口まで来てくれ誘導してくれたので問題なく通過したが今回は誘導なしで入ろうとしてオンサンドしてしまった。前進、後進をいれても動かないので VHF でマリーナを呼び出し助けに来てもらった。その間に一緒に来た艇が脇をすいすい入港して行った。この後シシリー島のタオルミーナまで 70NM あるので給油のためガススタンドに寄る。

ポンツーンはコの字型に棧橋があり其処にアロングサイドで 16:15 に着ける。北ヨーロッパではこのタイプの係留が多いが地中海では珍しい。

繫留終わると英国人夫婦が声を掛けてくれ 6 年前キスノス島で会ったとの事だ。我々の名刺も持っていた。

オフィスに手続きに行くとスタッフの女性が前回来たことを覚えていてくれた。

2012 年最初に寄港したときは水と電気は無かったが 20€ だったのが 2015, 16 年には 50

€そして今年は 80€と繋留料が上がっている。いずれも夏のシーズンだ。

声を掛けてくれたのは 2012 年 10 月にキスノス島のルートラでお会いした Jinti 夫婦だった。とっても感じの良い初老の夫婦で我々と同じで夏の間地中海を航海しているようだ。

夕食はこの名物の特大ピZZAを食べる。毎回ここによると食べるが二人でも半分も食べきれない大きさだ。マルゲリータピZZAを頼んだがトマトとチーズの味がイタリアらしく美味しい。サラダ、白ワインで食べた。久しぶりに食べ過ぎをしてしまった。

9月21日(金) Rocceella Ionica 晴れ 微風

朝方雨が降ったが直ぐ青空が見えてきた。

午前中にここから 3 km位離れている町に買い物と観光を兼ねて歩いて行く。海岸沿いの遊歩道があり気持ち良い。

イオニア海を見渡す崖上にアンジュ家が 15 世紀立てたお城が堂々と立っている。ここロツェラ・イオニカもギリシャの植民地からの歴史を持っているが現在は静かな田舎町だ。

夏にはジャズフェスティバルが開催されたりして海水浴客でにぎわうそうだが 9 月後半になると大変静かな海辺の田舎町だ。

魚屋さんを聞いて行ってみると良い魚を置いてある。新鮮なカラマリ、エビ、サーディンとムール貝を買う。

今日 2012 年にキスノスでお会いした Jinta 夫妻にハッピーアワーの招待をしているのでその準備だ。

野菜も買って帰りはタクシーを呼ぼうと電話してもイタリア語で通じず、近くに居た女学生に電話してもらい無事来ってもらう。親切な可愛い子だった

悦子はハッピーアワーの準備をする。

19 時に 6 年前に会った英国人夫妻の Jinti さんと同じくここに繋留している英国人夫妻が来る。

ハッピーアワーはエビ、ムール貝、カラマリでワインを楽しむ。とってもお喋りなお仲間楽しい時間を過ごす。Jinti 夫妻は我々に一日遅れでカタニーヤに来るという事で又の再会を約束する。

ハッピーアワーだったが 22 時過ぎにお開きになった。楽しく心温かい人たちとの出会いが嬉しい。

明日は 6 時出港で 70NM 先のタオルミーナを目指す。

9月22日(土) Rocceella Ionica~Taormina 71NM 晴れ 微風

05:30 起床、まだ外は暗い。出港準備して 06:00 に舳いを解く。日の出が 6 時 30 分過ぎだ。

入港時オンザサンドしたので其処を避けて注意深く出港する。

風が無く機走になる。朝早い時は出港してから朝食になる。コーヒー、蜂蜜とパン、ヨ

ーグルトとバナナの簡単な食事だ。

この辺りは釣りが盛んで早朝から釣り船が出ているので見張りが大事だ。

お昼にトマトサラダと納豆かけ豆腐を頂く。私がダイエットしたときの健康食だ。冬に10 kg体重を減らした。

悦子がトローリングの糸を揚げようとしたら日本でいうブリの子のわかしに似た綺麗な魚が掛かってきた。小さいが二人分の刺身に十分の量だ。早速さばいて夕食用にする。今年初めての釣果だ。

生憎と良い風が吹かず機帆走しながら12時間エンジンで走った。

タオルミーナの崖の直ぐ下にある泊地に18:00 アンカーを打つ。ここも何回かアンカーを打ったところで馴染がある。風は無いのだがうねりが入り結構艇が揺れる。1艇だけアンカーリングしていた。

生ハムと洋ナシで白ワインを飲んでからエビの頭を使ったスープ、トマトとルッコラのサラダ、そして今日の釣果のお魚の刺身をご飯で頂く。日本のワカシに似た味で遜色ない美味しいお魚だった。

月が丸くなって来ているので日よけのピントップをたたんで月とタオルミーナの夜景を見ながらウイスキーのオンザロックで食後を楽しむ。

艇は揺れるが風もないので心配なく寝れる。ゆりかごで寝る様だった。

#### 9月23日(日) Taormina~Catania 25NM 快晴 微風

錨泊なので外部電源は無く、220Vの電源は使えない。朝食にパンをガスオーブンで焼いてコーヒー、カボチャのスープ、ヨーグルトで頂く。雲一つない青空だ。タオルミーナの町が覆いかぶさるように錨泊地を見下ろす丘の上にある。昨晚のうねりによる揺れも治まった。

久しぶりにひと泳ぎする。10mの底まで良く見える。

10:30にアンカーを揚げてイソラ・ベッラの海辺の方を廻りながらタオルミーナの町を覗いて行く。北側の一番高い頂きには城塞が建っている。孤立した山の頂上には中世の町カステロモーラが美しく見える。この丘の上にはギリシャ劇場もあるがそれは下からは見えなかった。

エトナ山は生憎と雲に隠れていたが静かな海面を機帆走する。途中自然保護区域があり慌ててトローリングのルアーをあげる。

お昼にはチャーハンを頂く。イタリアに入りパスタ、お米と炭水化物を食べる量が増えているので食べ過ぎに注意だ。

カタリーニャのマリーナは大きな商業港の中にある。今日も豪華大型客船が入港していた。

この港の中には4つほどのマリーナがある。前回繫留したCircolo Nautico N.I.Cのマリーナに行く。電話してもVHFで連絡しても誰も出てこない。ゆっくり近づくとスタッフらしき人が指示してくれた。一切英語を喋らない人で、すべて身振り手振り振り振りで案内して

くれた。

15:40に舫う。ここは港の奥で町迄遠くなるが一応施設が全部揃っている所以助かる。早速艇を水洗いする。

明日から毎年来ているロシア人のリサが来るのでレンタカーの手配をインターネットでする。小型の車だが3日間で56€で借りられた。

久しぶりにシャワールームで体を洗う。

日が暮れるのが大分早くなった。19時前に太陽が沈むようになった。

夕食に野菜サラダ、カラマリのグリル、サーディンのシチリア風の料理を頂く。一昨日の宴会、昨日は錨泊という事で白ワインが残り少なく二人で分けて飲むが足りなく最後は赤ワインにした。

食事も早く終わったので、静かなマリーナ内の艇の上で満月を見ながらのんびり過ごす。

#### 9月24日(月) Catania 快晴 微風

今日はリサがドイツから来る日だ。朝食後昨日インターネットで予約したレンタカーをカタニーヤ港内にあるAvisに行き借りる。10時から借りる予定だったのでその時間行ったら既に3、4人待っていた。

昨日は日曜日でマリーナのオフィスが閉まっていたので書類を持って手続きに行くが書類もいらないとの事手続きなしで繋留することになる。ここのチーフは前回来た時から馴染みの人で日本が大好きだそうととても親切で助かる。

バウスラスターのバッテリーが弱くなっていたのでここのメカニックに頼んで交換してもらう。バッテリー代300€、工賃50€だった。

お昼にポモドーロのパスタを頂く。昼食後レンタカーで市場に行ってみる。お昼過ぎていたので市場は終わっているかなと思っていたがメインの魚市場以外は開いていた。新鮮な野菜、果物、アサリ、ビーフステーキを買う。

その後思い出しながら馴染みのスーパーマーケットに行き、ワイン等当面の食料を買う。

ランドリーが見つからないので自分で洗濯をしてシャワーを浴びた後、コックピットで横になって居ると隣にカタマランが入ってきた。ぎりぎりの幅なので後ろの舫いを少し緩めてスペースを若干広げた。

リサからメールが入り20時到着の便が一時間遅れになるとの事だった。それに合わせて空港に迎えに行く。

約40分遅れで飛行機が到着して元気な姿でリサが出てきた。

艇に戻って歓迎のパーティーをする。彼女は昨日コンサートがあってそのまま来たとの事であった。昨年はCAVOK5に出来なかったので一昨年のコルフ島以来になる。その時は風が強くコルフ島から出港出来なかったが今回も3日間は強風が続くので暫くカタニーヤ滞在となる。レンタカーは4日間借りておいた。

9月25日(火) Catania 曇り 強風

夜半から風が強くなってきてフェリーの出入りの波と合わせて艇が大分揺れる。隣のカタマランと擦れる。繫留してある場所がマリーナの一番外側の防波堤の外で波が入る。マリーナのマスターが来てくれ揺れが激しい様だったら内側に移動出来るとの事だったので隣のカタマラン共々移動した。親切なマスターで色々助かる。今度は静かになった。

昼前にマーケットを見学してからバロック建築で建てられた情緒ある街並みを歩きながらリサと悦子はウインドショッピングをする。

町の中心にドゥオーモ広場があり町のシンボルになるエジプトから運ばれたオベリスクを載せた火山岩で出来た象の噴水がある。カタニーヤはエトナ火山の噴火で何回か大きな被害を受けている。広場にはローマ時代の浴場の上に建てられた大聖堂があり、そのファサードが見事だ。大通りの途中にはローマ時代の円形闘技場の遺跡が保存されていた。

カタニーヤの歴史だが旧石器時代にネアンデルタール人が住んでいたそうだ。

先史時代以降紀元前 776 年にギリシャ人がカタニーヤ近郊に都市を作っている。その後ローマ帝国が統治するが西ローマ帝国が減びてゴート族、フランク族が押し寄せてきている。

紀元 8 世紀にはイスラム支配になるがその後レコンキスタのスペイン領土になっている。

1215 年には神聖ローマ皇帝になったフリードリヒ 2 世が統治する。一筋縄ではいかないヨーロッパの歴史を見ることが出来る。

お昼はリサが調べてきたシチリアの伝統的料理の店に行く。彼女はいつもだが観光客の行くような店には行かない。お陰でこちらはお相伴に与っている。

“Torattoria di De Flore” というお店で小さなこじんまりした感じの良いお店だった。

1962 年からのお店でコック長の名物おばあちゃんが注文を取ってくれた。

シシリー料理を頼む。パスタノルマ、イカスミパスタ、馬肉のミートボール、サーディンとチーズとナッツとオリーブの詰めた揚げ物をシシリー産ハウスワインで食べるがいずれも味付けが良く美味しく頂いた。

3 時間近くの昼食を終わり艇に戻ってシェエスタする。

9月26日(水) Catania 雨後曇り

今日はリサの案内で内陸観光に行く。リサは日本では見つからないような詳しくシチリアの説明あるドイツの観光案内の本を見ているので大変詳しい。

エンナ (Enna) の町を目指す。カタニーヤから約 100 km 内陸に入ったところだ。お昼の目的にしていたエンナの近くのレストラン “al Fogher” に寄ってお昼の予約をしてから、カサーレの古代ローマの別荘に寄る。ここは前に来たことがあるがローマ時代のモザイクが素晴らしい。14 時に予約してあったエンナの近い場所に一軒ぽつりと建っているレストラン “al Fogher” に行くがここが素晴らしい雰囲気のあるレストランで伝統的なイタリア料理を出してくれる。

其々ウサギの肉、カジキマグロのソテー、ラムの煮込みを食べるがフランス料理と違ってシンプルながらもイタリヤらしい味付けの美味しい料理だった。

大満足の昼食の後エンナにあるロンバルディア城に行く。この城はアラブ人、ノルマン人の要塞跡に神聖ローマ帝国皇帝フリードリヒ 2 世が建て、その後アルゴン家が改造したという城だ。この城のピサの塔から見るパノラマは雄大だ。遠方に見える集落の街並みや、なだらかな丘にオレンジ畑やオリーブ畑、牧草地そして農地が広がり素晴らし景観だった。一日中シチリアの内陸を楽しんで艇に戻るとカタマランのドイツ人がメッシーナ海峡の情報を教えてくれるという事で艇に来てくれ細かい情報を教えてくれる。温かい心遣いが嬉しい。感謝する。

夕食は野菜サラダと先日仕入れたあさりでスパゲッティボンゴレをロゼワインで頂く。最後はサボテンの果のリキュールで締める。

#### 9月27日(木) Catania 快晴 強風

朝食後直ぐマーケットに買い物に行く。果物、野菜、先日食べて美味しかったヒレ肉、生ハム、チーズを買ってから内陸ドライブに出かける。今日もりサが調べたルートだ。

シシリー島の内陸は豊潤な土地で北海道を思い出すようななだらかな丘がうねるように大きく広がっている。そしてほとんどすべて開墾されていて場所によってはオリーブそしてブドウ畑になっている。放牧地に牛、馬、羊が放牧されている。集落は丘の上にあり、集落というより大きな町を形成している。フランスの鷲の巣村を大きくしたような感じだ。集落の上から見る雄大な農地の光景は美しかった。

お昼はパレルモ県になる Petralia Soprana の町にある“Lu Carme”で食べる。子牛のカルパッチョは初めて食べたがカジキマグロのような柔らかいお肉で味付けも良く気に入った。

ここはメニューにお肉が少なくポークチョップとラムチョップをシェアして食べる。

私は運転するのでワインは飲めなかったがとってもコクのある美味しい赤ワインだったそう。

お昼にいつも時間を取ってしまう。それでも途中の村の Bar (喫茶店) に入りエスプレッソを味わう。

高速道路で約 130 km の距離があるカタニーヤに戻るがカタニーヤ市内で大渋滞に巻き込まれ 2 時間程ロスして 20 時過ぎに艇に着く。

遅くなったのでロゼワインに生ハムメロン、今朝買ったモッツァレラを使ってのカプレーゼ、ブドウで済ませます。

少々長い時間の運転と夜間にかかったので疲れた。

#### 9月28日(金) Catania 曇り 強風

出来れば今日タオルミーナに向かって出港したかったがうねりと風が未だ強いので出港

は取りやめた。もう1艇出港予定していた艇は出て行った。沖を見ると大きく揺れながら機走していた。その艇のキャプテンは2回世界一周をしたそうだ。奥さんとお孫さんのような小学生の坊やを二人乗せていた。この後ギリシャに向かうとの事だった。

レンタカーを返す前にマーケットに行ってタコ、カジキマグロ、野菜を買う。

買い物の後、朝食を食べたので遅くなりお昼兼用となった。

艇の蛇口から水が出なくなる。給水ポンプの故障の様だったのでマリーナのメカニックに見てもらう。ポンプを外してみるとポンプが壊れていたのも新しいのと替えてもらう。マリーナでの故障で良かった。結構水が使えなくなると厳しい。

午後はメッシーナ海峡の潮流を調べる、そしてメッシーナのマリーナの予約をする。英語を喋らないイタリア人が多いので困ることがある。

悦子とリサは町にショッピングに出かける。

私は明日の準備をした後、町に運動がてら出かけてシチリアのお土産を買う。

繋留料を払いに行くが馴染みのチーフがいなくて別の人が清算してくれる。1日55€で良心的なマリーナだ。

明日のメッシーナ海峡の潮流の時間をメッシーナ・コントロールに電話で確認するが生憎と我々が行く北行きと反する潮が丁度メッシーナにかかることになる。小さな船は岸側を通るので、それほど潮は気にしないで良いという人もいるので明日行くことにする。

波の予想を見ると明日の午前中は2mある。風も正面になるので明日は、乗り心地は悪いと思う。

夕食は今日朝仕入れたエビ、タコがメインになる。

たっぷりサラダとブロッコリン、カリフラワーの酢漬けそして市場でおまけしてくれたシャコ貝で一杯始める。エビはガーリック味のソテー、タコは刺身で頂く。リサはシャコ貝とタコ刺身は初めてだそうだがチャレンジして美味しいと言っていた。

エビは新鮮で味付けも良かった。タコは久しぶりに山葵醤油で頂く。日本酒と行きたいところだが白ワインで美味しく頂けた。



9月29日(土) Catania~Messina 51NM 晴れ 微風後順風

6日間カターニャに泊まった。台風並みの低気圧の影響で出港出来なかった。

6:30に起きて07:00に舳いを解く。湾内でメインセールを揚げてから港外に出る。相変わらず大きなうねりがある。風は治まって弱い南西からの風で後ろからになる。

リサは寝かしたままで出港した。うねりだけなので波を叩くことが無いので助かる。機帆走する。

エトナ山の全容が奇麗に見え山頂からは噴煙が棚引いていた。タオルミーナを通過したときタオルミーナの泊地には錨泊している艇は見つからなかった。うねりが強かったせいだと思う。

今日は揺れるのでお昼は乾きものと果物で済ますと云っておいたが悦子がサンドウィッチを作ってくれた。お腹が空いていたのもあって美味しかった。

13時からメッシーナ海峡の潮が我々の北行きに反対の南に流れる。岸側を航行しているのと潮の影響なく航行出来た。

メッシーナの Marina Del Mettuno に VHF で連絡するとラバーボートで迎えに来てくれた。前日に電話で予約を入れておいた。

16:20にボンツーンに横付けする。海の色がマリーナ内でも素晴らしく綺麗な透明度の高いブルーカラーだった。

このマリーナは施設のわりに結構高いので悪評だがティレニア海とイオニア海を結ぶメッシーナ海峡の出入り口に位置しているのでプランするには好都合の場所である。

この時期で 98€だった。

メッシーナの町には特に見るべきものが無いので艇でハッピーアワーを過ごす。

夕食はこの間カタニーアのマーケットで買ったヒレ肉ステーキをサラダと頂く。味は美味しかったが前回同じところで買った部位に比べて筋が一寸入っていた。

シチリア産赤ワインと美味しく頂いた。

#### 9月30日(日) Messina~Vulcano 41NM

07:05 に舳を解く。この時間のメッシーナ海峡の潮の流れは北行きなのでタイミングが良い。

メッシーナ海峡は北行きと南行きと中心を境に航路を分けている。小型船はその枠外の岸側を通れば関係ない。GPS チャートで区域を見ながら海峡を通過する。追潮 2 ノットの恩恵に与る。

メッシーナ海峡を通過して進路を西に取るが生憎と向かい風になる。10 ノット強の良い風が吹くが機帆走する。

風が正面からでないので助かるがセーリングは楽しめなかった。

3 度目になるブルカノ島のアンカーレッジに 14:25 にアンカーリングする。

お昼を食べてなったのでお昼にカジキを入れたポモドーロを頂く。食休みをした後 3 人で泥温泉と海中温泉に泳いで入りに行く。泥温泉はぬるま湯でいつまでも浸かっている。そして海中温泉は浅い所から温泉が湧き出て海水と混じって心地よい温度になっている。

両方の温泉を浴びた後泳いで帰る。明日行く予定の Cefalu のマリーナの予約を入れておく。

今晚は錨泊なので久しぶりの BBQ をする。カタニーアで仕入れたエビとマグロそして野菜を BBQ で楽しむ。アンカーリングしたときは 4, 5 隻の艇が錨泊していたが夕方には 15 艇程に増えていた。

静かな海で天の川を見ながらナイトキャップをしてからやすむ。

#### 10月1日(月) Vulcano~Cefalu 50NM 快晴 微風

朝食はさっさと済ませて 07:15 にアンカーを揚げる。近くにアンカーを打っている艇が 2 隻いてアンカーがそれらの艇の下になっているかと心配しながら揚げたが接近したものの無事揚がった。

風が弱く機走になる。途中から弱い風が吹き出し機帆走になるが最後まで帆走は出来なかった。

お昼に昨晚の BBQ の残りのエビとツナを入れたポモドーロを頂く。

約 9 時間の機走でチェファルのマリーナ 16 : 05 に舫いを取る。VHF が通じてスタッフが係留場所を指示してくれた。

イタリアのマリーナは高くここも一日 80€ で 2 日目は 70€ とまけてくれた。

早速マリーナの電動小型シャトルで町に出る。綺麗な旧市街の街並みで観光客で溢れていた。又海水浴場では夏盛りの様に海水浴客がいた。

明日リサをパレルモ空港迄送っていくがてら島内を観光して美味しいランチを食べに行くためレンタカー屋を探す。Europacar に行くと一日 79€ との事、高いのでやめてインターネットで探して Avis が 59€ であったので予約した。

町は細い路地の旧市街地でお店が並び大変アトラクティブで観光客も多い。

シチリア王国を建設したノルマン人のロジャー国王が 1137 年に建てたドウオーモ・デイ・チェファルを覗くが大変大きな立派な建物だった。イタリアはいたるところに立派な教会がある。

夕食はリサが調べておいたレストラン “Friscele” に行く。ミックスサラダ、ボイルド・カトルフィッシュサラダ、ラビオリ、ツナヒレグリル、ツナのタルトをシチリア産の白ワインで食べる。ツナの料理には果物や香草で調理してありとても美味しかった。リサのお陰で外食は全て当たりになる。デザートにミルフィーユを女性が私はグラッパにした。

気候が丁度良くなり夜になると半袖だと寒くなるぐらいだ。

賑やかな街を散歩しながらシャトルバスが迎えに来る場所まで歩く。

艇に戻って艇内でシャワーを女性は浴びた。このマリーナは高いわりにシャワーが無い。

#### 10月2日(火) Cefalu 曇り午後時々雨

朝食後今日ドイツに帰るリサをパレルモ空港に送りがてら内陸をドライブしてランチをシチリアならではのレストランでとる事にしていた。

マリーナでシャトルを頼むとおじさんが車で町迄送ってくれる。

そのついでに二日以上繋留したら安くならないかと問いかけたら 50€ にまけてくれたので 5 日迄ここに停泊することにした。

Avis で車を借りて最初 Santuario Di Gibilmanna に寄る。丘の上に建ちイオニア海を一望できる大聖堂だ。12 世紀にロジャー国王が建設した。

次に山中にあるレストラン “Casale Drinzi” に行くが今日は休みだった。そこで姉妹店にもなる “Mercatale” を教えてもらい行くがここはランチが無という事でコーヒーを飲む。地元産の蜂蜜やジャムが置いてあり品質も良いのでお土産に買う。



リサが次なる場所を調べてここから 40 分ぐらいで行ける Caccamo の町のレストランに行く。途中の山中の景色は牧歌的で美しかった。カッカモには 12 世紀にロジャー国王が建てたお城がある。丘の上に孤高に立つ城壁の高い城だ。その脇にある“A Castellana”でやっとランチにありつけた。

タリアテッレ、マッシュルームソースのヒレステーキ、焼きナスのペースト、茄子のカポナータを食べるがシチリアの味付けでどれもが美味しかった。食後城を見学してパレルモ空港迄リサを送りチャフルに戻る。チャフルのスーパーマーケットで次の航海の為の買い物をする。

今日は久しぶりに小雨が時折降った。マリーナでもうねりが入り艇が時折ガクンと引っ張られる。

お昼が遅かったので夕食はサラダ、ハム、冷ややっこに納豆で簡単に済ます。

10月3日(水) Cefalu 曇り 午後終日雨

朝レンタカーを返しに行く。インターネットで予約した値段が全て込みで一日 59€だったのが支払う段階で 102€になっている。Avis にインターネットで確認のメールを送る。

戻ってから洗濯して干すが生憎と雨が降りだし船内に取り込む。

東に海が開いている。昼過ぎから港に東からうねりが入って来て艇が結構揺れる。ポンツーンと艇が揺れるので乗り降りが難しく危ないのでお昼から終日艇内で過ごす。

お昼にオムレツを頂く。

うねりで艇が前後に強く引っ張られるのでスプリングを入れた舳いロープで増し舳いをする。その増し舳いのロープも2度ほどぶちぎれてしまう。風は微風なのに心配するほど揺れる。とても避難港としては使えない。

隣の艇も舳いがぶちぎれたりして苦労していた。

真夜中過ぎまでウオッチを続けた。

#### 10月4日(木) Cefalu 曇り後雨

今日は午前中日が差したので昨日洗った洗濯物を干すが昼頃から雨が降りだしてきた。うねりも治まってこないのので町の裏に聳え立つ岩山に登る予定だったのをやめて艇内に居ることにした。

お昼にスパゲッティボンゴレーを白ワインで頂く。美味しい。

午後は日記等の整理をする。

ポンツーンも大きく揺れる中、艇が入ってくる。一人艇に渡る梯子から海に落ちていた。

悦子は昨日から一歩も外に出ていない。

雨で湿り気があるので暖房を入れたが温かくなならない。又一つ不具合発生だ。緊急を要すことでないので様子を見ることにした。

夕食に野菜サラダ、ロマネスコとオニオンのカレー風マリネ、ブロッコリン、アンチョビのマリネとトーストのカナッペ、タコ刺身をシチリア産ワインで頂く。今日飲んだワインはシチリア産で一番ポピュラーの“Corvo”で白は辛口で爽やかだ。

午後になりうねりが静かになり舳いロープを伸ばしたせいもあるがガックンという引きは無くなった。

#### 10月5日(金) Cefalu~Palermo 32NM 曇り 順風~強風

折角うねりも無くなりゆっくり寝れたが朝起きる頃から、又うねりが入って来て揺れが始まった。朝食を艇内で済ませて出港準備をする。スプリングを入れていた増し舳いを外しにポンツーンに上がり、揺れるので腹ばいになってシャックルを外そうとして苦戦していたら前の艇の人が二人来て助けてくれた。

無事08:15に出港した。

暫くうねりのある海面を機帆走する。2時間ぐらいすると良い風が吹き出し帆走に移る。だんだん斜め後ろからの風が強くなり20ノット前後になってきたのでジブ、メインともリーフする。それでも7ノット以上キープする。快調だ。

大きなパレルモの港内に入りその中にいくつかあるマリーナの内予約しておいたSitimare MarinaにVHFで連絡したら予約は土曜で今日金曜日でない。今日はいっぱいだと云って来た。それでも再度金曜の予約だと云ったら少し待てという事で10分ほど待っているとOKとの返事が来た。

14:00 に舫う。ここは 2015 年に来たことのあるマリーナでオフィスに行くと覚えてくれていて先ほどは待たして申し訳なかった話してくれた。二人いたスタッフは大変日本に興味を持っていた。西洋と違うカルチャーに興味があるようだった。

シャワーのヘッドが壊れていたの売っている場所を聞いたら買って来てくれた。

艇に居ると小さな子供連れのお父さんが来て、奥さんが日本人との事で後から艇に尋ねに来て良いか聞いて来た。

暫くすると日本人の奥さんと二人の子供を連れて訪ねてきた。

ご主人はドイツ人で 42 歳のカメラマンだそう。1 年前よりヨットの上で生活していてこれから大西洋、太平洋と航海予定しているとの事だった。

夕食は野菜サラダ、ブロッコリン、アンチョビのマリネとトーストのカナッペ、鶏の胸肉のオレンジソースを白ワインと赤ワインで頂く。

微動だしない艇内でぐっすり休む。

10 月 6 日 (土) Palermo 晴れ 微風

朝 9 時前に Paolo がサルデーニャ島から到着する。今日から約 2 週間彼とサルデーニャ島まで一緒に航海する。彼とはこの航海を始めた最初の年にフランス Benodet で友達になりそれから交流が続いている。元アリタリア航空のパイロットで自分もヨットを持っていてヨットの事を良く知っているので助かる。今回もサルデーニャ島まで彼に彼方此方案内してもらおう。

午前中にスーパーマーケットで当面の食料の買い出しをする。Paolo は料理も上手なのでシチリア産のチーズ、ハム、ワイン等選んでもらう。買った食料はバイクでデリバリーしてくれたが私が荷物一杯のバイクの後ろに乗り混雑した道路をすり抜けて行くので怖かった。

丁度艇に戻ったら昨日 CAVOK5 に寄ってくれた奥さんが日本人のドイツ人の家族の艇が出港していくところだった。

お昼に今日買って来たシチリア名物のライスコロッケのアランチーニを食べる。ビール、ワインで心地よくなり 3 人でシェエスタしてしまう。

夕方 Paolo の友人でパレルモ在中のファベリチ (Fabrizio) エリザーベータ (Elisabetta) 夫妻が訪ねて来てくれる。日本茶、豆腐、日本のお菓子を振る舞う。食後夜に市内を案内してくれることになった。

夕食は Paolo の案内でトラッテリアに行く。凄く混んでいて 30 分以上待つとの事だったが美味しそうなので待つことにした。

シチリア料理を色々彼が頼んでくれる、茄子やイワシの料理その他いろいろあったが覚えてられなかった。イワシのスパゲッティ、イカスミのスパゲッティも美味しかった。勿論ワインはシチリア産を頼んだ。食後にシチリア名物の伝統的菓子カンノーロを少し味わうが甘すぎて且つ食後にはヘビー過ぎた。

食後夕方艇に来てくれたパオロの友人夫妻が来てくれ9か所の世界遺産のあるパレルモの町を案内してくれた。アラブ、ノルマン時代の栄華の時代の建物は町の中心に続き、中心にはクアットロ・カンティと云われる交差点の四隅をシチリアバロックの壮麗な建物が囲んでいる。旧市街地には歴史的建造物が広がっている。

パレルモは12世紀に神聖ローマ帝国の皇帝フリードリヒ2世によって文化の華が開き黄金時代を迎えた。

最後にゴッドファーザー3の舞台になったマッシモ劇場の夜景を見て艇に戻ったら24時を越えていた。

10月7日(日) Palermo~Castella mare del Golfo 33NM 快晴 順風

良いお天気の中08:55に舳いを解き港内のガスステーションで軽油を満タンにする。

107ℓ入る。178€でこちらは軽油も高い。

途中良い風が南から吹き出し快調に7~8ノットでセーリングを楽しむ。

お昼はファベリチさんの差し入れのアランチーニを食べる。

カステッラマーレ・デル・ガルフの湾に入ると風も治まり防波堤に囲まれた港の中にアンカーを打つ。ここはマリーナもあるが、静かな港内のアンカーレッジで錨泊する。パウロが良く知っているのので助かる。他に1艇カタマランが錨泊していた。早速泳いでシャワーをする。

バウラスターのオンスイッチが働いたままだったのでパウロに見てもらい直す。

又給水ポンプが働きっぱなしの時があるのでそれも見てもらう。これはアキュムレーターにエアを入れることで解決した。彼は良く知っている。

ここから見る町は岩山の裾にあり山の緑と白い家と海の青とコントラストが綺麗な風向明媚なところで気に入る。

もっと滞在したいが明後日からの風が心配なので一泊の滞在にした。

生ハム、パンチェッタ、大豆とオニオンのマリネで一杯飲んだ後、野菜サラダ、ブロッコリン、イカのスパゲッティを夕食に頂く。

セーリング日和の良い一日だった。

静かな海でゆっくり休む。

10月8日(月) Castella mare del Golfo~Favighana(Cala Azzurra)41NM 快晴 微風

目的地が48NMあるので朝食前の07:00舳いを解く。CAVOK5の場合巡航速度が時速5.5ノット位なので一時間当たり5NM走る計算で予定を組む。

出港して一段落してから朝食をとる。

途中シチリア島の最西北端の岬 Vito lo Capo を通過する。結構順調に走ってきたのでパウロがマルサーラの手前にあるエガディ諸島のファビリアーノ島のカラ・アズーラでアンカーを打って泳ごうという事になる。ついでに今夜、明日もお天気が安定しているので其

処で錨泊しようという事になり目的地を変更する。

行ってみると白浜の狭い海岸の沖合が錨泊地になって居てそこに錨泊用のブイが設置されていたので其処に舫う。アンカーを打つての錨泊だとお金はかからないがブイを使うと35€の使用料だとパウロが調べてくれる。



お昼にお蕎麦とラタトゥイユを頂いてから、泳いで海岸に上陸する。とってもきれいな海

で底の砂や岩によって海の色が変化して見える。海岸から崖の上に登ってみるとその色の変化がとても綺麗だった。

カメラを持ってなかったので一度艇に戻ってからテンドーを降ろして再度上陸して写真を撮る。

帰りにイタリア人の女性のグループが泳いでいてテンドーに乗せて欲しいという事だったので乗せてあげて海岸線を走る。とっても明るくて人懐っこい人だった。

艇に戻って海水で体を洗った後、海に入って石鹸を落としてからシャワーを浴びる。

パウロのやり方を見習った。

夕食はパレルモで購入したペコリーノ、モツァレラチーズ、そしてパンチェッタ、プロシュートとモルタデッラ、オリーブ、カリフラワー、大豆のマリネをシチリア産赤ワインで頂く。今日の予定のメインディッシュのステーキにまでに届かずステーキは明日にした。

シチリア産のチーズ、ハムはローマ時代からの歴史が育てた深い味を感じた。

ブイ舫いで安心して眠りにつく。

#### 10月9日(火) Favighana(Cala Azzurra)~Marsala 8NM 快晴 順風

未明から風が南に変わり湾内にうねりが入るようになってきた。

午前中ゆっくりここで泳いだりして過ごすつもりだったが止めて朝食後マルサラに向け  
09:20にブイからの舫いを解く。

生憎と風が正面からで13,4ノット吹いていたので機走でマルサラに向かう。近いので2時間後の11:20に大きな港の中にある Motia Marina に舫う。

静かな感じの良いマリーナだ。こここのところ不具合が出てきて直したつもりが再発した。カタニーヤで交換した給水ポンプだが又水が出なくなる。もう一つは艇の回転を良くするための船首に着いているバウスラスターが使えなくなった。これもカタニーヤでバッテリーを交換したのだが又駄目になった。パウロは船に詳しいので色々いじってみるが両方とも直せなかった。

明日もう一度見ることにする。

夕方前にマルサラの旧市街に行く。ここも歴史がありフェニキア時代から始まり紀元前396年にはカルタゴが要塞を造った。その後ローマ、アラビア、ノルマンと統治が続いた町になる。

そしてマルサラはマルサラワインで有名などころでもあり我々はそれを楽しみにしてきた。スペインのシェリー、ポルトガルのポートワイン、マデイラワインと4大酒精強化ワインと呼ばれている。

旧市街のワインショップでテストングして白、赤のマルサラワインを買う。

旧市街を散策したのちワインを買ったお店(Sampolo)のワインバーでパンの上に色々の種類のペーストをのせたおつまみでマルサラワインを楽しんだ。

艇に戻って今日の夕食はステーキの予定だったが結構ワインバーでワインとおつまみでお腹を膨らましてしまい一人一枚は食べられないので一枚を3人で頂いた。パウロがサルデーニャから持ってきてくれた赤ワインを楽しむ。マルサラワインとは一味違いお肉にあった。

#### 10月10日(水)Marsala 快晴 順風

朝パウロが給水ポンプを外して中を見るとカタニーヤで2週間ほど前に取り付けた新品の給水ポンプだったはずなのが錆びた中古の部品が使われていた。そこがガタガタになっていて給水ポンプが動かなくなったようだった。給水ポンプの修理をマリーナの専門家に頼む。

9時にレンタカーが来たのでシロッコが過ぎる迄の3日間借りることにする。1日辺り30€だった。場所とやり方によって値段が半分違う。

ここから約 90 kmの距離にある南岸沿いの町シヤッカ (Sciacca) に観光に行く。

この町は漁業、陶器、温泉で有名なところだ。

お昼に旧市街地にあるレストラン“Hostaria Del Vicolo”に入る。パウロが探してくれた。

感じの良い高級感のあるレストランでオーナー、スタッフも感じの良い人たちだった。

漁業の町なので魚料理を頼む。若干味付けをしたお刺身に盛り合わせを前菜に頼む。カラ

マリタルタル、生エビ 2 種類、コッドフィッシュ、マツカレル、そしてサーディンとエビの上にモツァレラとバタークリームをのせた盛り合わせも綺麗な皿が来た。

こちらで初めてのお刺身料理を食べる。エビ以外はちょっと味付けしたりして全くの生では無いが殆ど生で美味しく料理してあった。

パスタはこの名物アンチョビパスタ、エビとアンチョビオイル、ナスのピューレを引いた

アンチョビパスタと 3 種類アンチョビを使ったパスタをシェアして食べるがどれも美味しい味だった。シヤッカの地ビールを頼むがハーブが効いていてシチリアらしいビールだった。

食後旧市街を歩くがここも立派な教会があり 3 つ程覗くがいずれも外観のみならず内部もフレスコ画や絵画で素晴らしい装飾がされている。

残念がらシヤッカテルモは休館中で入れず諦めて丘上の教会からアフリカを望む海を見て帰路に着く。

いつも私が車を運転しているが今日はパウロが運転してくれたので楽をさせてもらった。帰ったのが 20 時近くなったのとお昼のご馳走でお腹がまだ空いてなかったので生ハムメロン、チーズ、ラタトゥユ、ひよこ豆のシチュウ、大豆のマリネをビールと赤ワインで頂いた。ギリシャで頂いたひよこ豆が美味しかった。

#### 10月11日(木) Marsala 曇り シロッコの強風

今日は本格的にアフリカからの風シロッコの強風が吹く。

給水ポンプの修理が終わって持って来たのでポンプをパウロが取り付けしてくれた。無事機能してくれた。

午前中ランドリーで洗濯物を出してからフィッシュマーケットに行ってカラマリ、エビ、サ

ーディンを仕入れる。旧市街を散歩してから艇に戻りお昼にするがパウロがブロッコリンのパスタを料理してくれた。ブロッコリンを茹でてつぶしてガーリック、アンチョビ、ペ

ロンチーノとオリーブオイルで混ぜたソースのスパゲッティだった。初めて口にしたブロッコリンのスパゲッティだったがブロッコリンの味の出たとっても美味しいスパゲッティだった。

その後右舷の航海灯が点かなくなっていたので球を替えよとしたが外し方を間違えて手こずってしまった。

お昼のビールが効いてコックピットの上で寝てしまう。

この冬季繋留料が安い提案だったのでパウロと相談してこのマリーナで越冬も検討したが船底塗料とか諸々の値段が高いので当初の予定通りサルデーニャにする事にする。

夕食は今朝仕入れた魚介類でお寿司だ。パウロは日本食が大好きで刺身、寿司を楽しみにしていた。イカとエビのお刺身、イワシの酢漬け、イカ、エビのお寿司、アボガドの巻きずし、エビのスープをビールと白ワインで頂く。流石漁業が盛んな場所だけあって新鮮なイカ、エビで日本と遜色なく美味しく頂いた。

#### 10月12日(金) Marsala 曇り、雨

朝方は晴れ間があったが積雲が覆いかぶさってきた。今日はセリネンテの遺跡の観光を予定していたので雨が降る前にと朝食後直ぐ出かける。生憎と途中から雨が降り始めた。

セリネンテ遺跡は欧州で一番大きなエリアを持つ遺跡で紀元前 628 年に古代ギリシャ植民地として建設された。紀元前 400 年前後が一番栄えたが紀元前 250 年にローマ軍に追われたカルタゴに破壊されその後歴史の舞台に出ることが無かったようだ。

古代ギリシャ時代のいくつかある神殿の内ヘラ神殿が修復されているがライムストーンで出来た神殿が当時の栄華を物語っている。

2015 年 7 月に CAVOK5 でセリネンテの沖合を通過して海から丘の上の遺跡を見て訪れてみたいと思っていたので実際に柱に触って感動を味わった。

途中スーパーマーケットでなくスーパーストアと名乗っている“Conad”でパオロの案内でシチリアの食材と新鮮な鯖があったのでしめ鯖用を買う。

艇に戻ってからお昼にパウロがそら豆のパスタを作ってくれる。昨日に続いてイタリア人ならではの素材を大事にしたパスタを美味しく頂いた。

食後ランドリー、ボードフォーン、マリンショップに行く。足ヒレと釣り道具入れを購入する。

泳いでなかった泳ぎたくなり車でビーチに行って泳ぐが、秋になったのか、あるいは天気が悪いからか誰も泳いでない中泳ぐ。泳いだ後は気持ち良い。

パオロの付き合いでフリーズを買いに行っている間に悦子がしめ鯖でお寿司を作っておいてくれた。ゴマダレイチジク、ラタトゥユ、茄子のみそ煮、イカのグリルも頂く。昨晚に続く日本食をパウロは喜んでくれた。

グラッパの代わりにウイスキーを食後に飲んでやすむ。

#### 10月13日(土) Marsala 曇り

食後ビルジポンプが時折廻るようになった。どこからか水が流入している。水を舐めてみると海水ではない。パウロと床をはがしたり、あらゆるところを点検して最後にやっと

水タンクからのパイプに漏れがあるのを発見して解決した。これに午前中を通やした。

お昼に冷やし胡麻中華を頂く。ビールが心地よくしてくれ暫くコックピットでうとうと  
した。

明日から風が良くなるので出港することにしてマリーナの清算をする。最初の交渉でパ  
ウロがシーズンオフになったからと云って一日 70€の係留料を 35€にまけさせてくれていた  
ので安く繋留出来た。

明日からのクルージング用の買い物をしてから運動を兼ねて私は 50 分ほど港の周りを散  
歩する。夕焼けが奇麗だった。

夕飯はパウロがピZZAをご馳走してくれることになって町中のピZZERIAに行く。

50 種類以上のピZZAがありシチリア特産 Alla Norma (茄子) Bufalina (マルガリータの  
モツァレラチーズが水牛) Blancaneve (モツァレラチーズとオレガノ) の 3 種類を地  
ビールで食べる。いずれも薄いピZZAパイで特に私には Bufalina がとっても美味しかった。

帰りにジェラードを食べて艇に戻り静かになった夜空をみながらウイスキーを一杯飲ん  
で寝る。パウロは非常にヨットの事も知っていて、そしてその他の事も大変良くやってく  
れる。

10 月 14 日 (日) Marsala~Maretimo~Villasimius 160 NM 曇り順風~強風 15~30 ノッ  
ト

お天気が回復したので今日マレットモ島に向けて 10 : 00 に舳いを解く。マルセラには 6  
日滞在したことになる。

北東の追い風の良い風が吹き 7 ノット前後の速度で 21NM 先のマレットモ島の Big  
Game marina に 14 : 30 に着く。ここは以前来たことがあるが今回は 10 月なのでポンツ  
ーンが撤去されていた。岸壁に横付けするがうねりが入り岸壁と艇がこすれて具合良くない  
ので諦めて直接 150NM 先のサルデーニャ島に向かう事にした。

相変わらず追手の良い風で 20 ノット前後の風を受けて 7 ノット以上の速度でセーリング  
を続ける。前回このレグでマグロを釣ったのでトローリングに期待した。

お昼にサンドウィッチと昨晚のテイクアウトしたピZZAを頂く。

風も段々強くなり 30 ノット近く吹くようになったので暗くなる前にとメイン、ジブとも  
リーフするが速度はそれほど変わらず波に乗って 11 ノットを出す。

夕食は鶏と野菜のスープを頂く。ローリングで揺れる中体をホールドしながら悦子がよ  
く料理してくれた。

パウロとは 2 時間ずつ交代でウオッチをする。18 : 35 に日没になる。

コメント [MY1]:

10 月 15 日 (月) All night cruising~Villasimius 快晴 順風

夜なると三日月が出てきて海面が少し明るくなる。月が沈むと満天の星となる。

風は変わることなく 20 ノット以上吹き続け艇も順調に 7 ノット以上をキープする。

日の出は07:25で明るくなってくる。

トローリングでは一度ルアーを取られたがその後は音沙汰無しだった。

サルデーニャ島の目的地は当初、今年の越冬先のカリアリを予定していたがお天気が良いので一つ手前のヴィッラシミーウスの入り江で錨泊して今年の航海の最後の晩をアンカーリングで過ごすことにした。入り江にはうねりも入らず4.5mの砂底に12:35にアンカーを打つ。160NMを26時間で走ったことになる。予定より早く着いた。

景色の綺麗な湾で海岸ではまだ海水浴客が結構楽しんでた。お昼にモルタデッラのサンドウィッチとピザを頂く。昨夜の鶏と野菜のスープ以来の食事になりビールと共に美味しく頂いた。

2時間交代でウオッチしてきたがゆっくり寝れてなかったので昼寝で熟睡してしまう。

目が覚めてから泳いでアンカーの状態を見に行くがしっかり砂地に食い込んでいた。チェーンは40m伸ばした。

夕食は生ハムとメロン、ズッキーニのリゾットとオムレツを頂く。パウロのイタリア料理はとっても美味しい。

静かな海で最後の錨泊を楽しんだ。

10月16日(火) Villasimius~Cagliari 21NM 晴れ 順風から微風

朝食後ひと泳ぎしてから10:10にアンカーを揚げる。水温は23度だった。

今日は今年最後のレグになる。未明に雨が降って朝方は曇りだったが出るときは晴れてきた。ビントップを畳んで太陽を浴びる。風も順風でトローリングの為メインセールだけで4ノット前後をキープして釣果を狙う。

今年最後のセーリングを景色の良いサルデーニャ島南海岸線を見ながら良い風を受けながら楽しんだ。残念ながら釣果は無かった。

16:15に今年最後のMarina Del Soloのボンツーンに舫う。これで今年のクルージングが無事終了した。

珍しくカスタムが来て書類を調べた。シェンゲン協定の件が少し心配していたが何事もなく終わる。

夕食は今晚もパウロが料理してポツタルガパスタを作る。野菜サラダ、ポツタルガのオイル漬けで甘口のマルサラワインで頂く。ポツタルガは甘めのマルサラワインが合うとの事だったがその通りだった。マルセラはポツタルガの産地でもある。

食後パウロが買ってきたプチケーキをデザートにしてウイスキーを楽しむ。町に出かけて彼のお薦めのバーに行きホワイトモスコウを飲む。これも彼のお薦めだったが甘口のカクテルだった。感じの良い人気のあるお店だった。カリアリはパウロの地元で馴染みのお店だった。



艇に帰ってからシャワーを浴びるがそのころから雨が降り始めた。遠くから雷鳴が聞こえた。

微動だにしない艇でベッドに入り半年の疲れを取る。